

## 「子宮上皮内ガン」を自分療法にて治す自信を抱く

Y・S (30才・福島在住)

2015.06.16 杉本記

30歳のY・Sさんが養生苑に来られたのは6/13の2時頃でした。子宮上皮内ガンの疑いで手術を受けるかどうか迷っている事と、過食嘔吐を7年も繰り返していて心も体も辛いという事で来られました。

鬼木苑長との面接で、Y・Sさんの状況確認と、苑長自身の胆のう管ガンに出合いどのようにして克服してきたかの話を聞いて、その後すぐに「温熱療法」の体感に入りました。

まず、苑長をモデルに温熱ドームでの発汗の状況、温熱器での治療（アチチ反応を含む）を見学していただきました。次にY・Sさんに温熱ドーム入ってもらい、「医療の原点は、生まれながら人間に与えられている**自然治癒力**の働きを活性化し、免疫力を高め身心の症状を治したり、病の予防をするためある。温熱療法はまさにこの自然治癒力、免疫力を活性化するものである。」ことを説明し、自分自身でドームの温度調節する方法とドームの特徴を説明しました。彼女は、最近ほとんど汗をかかないと言っていましたが、30分で滝のように汗をかき自分でもびっくりしていました。

次に、温熱器での治療です。これも自分で治療ができるように、特徴説明と操作方法を説明し、まず背中側は私が治療を実施しました。背骨への注熱をするために腰部分に温熱器を当てると、その瞬間にアチチ反応がでる状況で彼女自身で自分の体の悪い部分を自覚したようです。

腹部側は彼女に温熱器をもってもらい、持ち方・当て方等説明し、自分で注熱をしてもらいました。腹部の丹田より下はほとんどアチチ反応が強く、ここでも悪い部位を自覚されたようです。その後、温泉で汗を流していただき一日目の治療を終了しました。

彼女は、この温熱療法「温熱ドームで汗を出し、温泉で汗を流し、温熱器をかける」を一日目夕食後、二日目朝・晩、三日目朝まで実施され、「自分の病は自分で治すんだ」という強い決意を見せられたと感心いたしました。二日目の夜、“「アチチ反応」は治まってきましたか？”と聞くと、“出るのが少し遅くなったように思います」と良い方向へむかっている返事でした。

二日目からは「感性内観療法」に入り、午前中は鬼木苑長より「感性内観」について自分の体験談をまじえて講義があり、その後、「母親」について調べて

いただきました。

期間を3つに分けて調べて頂きましたが、最後の面接では内観が深まり、お母さんに対する感謝の気持ちがあふれ、涙ぐんでの報告でした。

三日目は「祖母」「父親」と実施していただき、最後に母親への「ロールレタリング」をしていただきました。これを声をだして読んでいただいた時、私も涙ぐんで聞かせてもらいました。この内容が、今回の「感性内観」の結果を如実に表していますので、最後に添付させていただきます。

彼女が晴々とした表情で帰られるのを、うれしく送ることができました。ありがとうございました。

### 【ロールレタリング】

「母から私への手紙」

Y・Sちゃんへ

急に居なくなってしまうってごめんなさい。あなた達をおいていくのはとても辛かったし苦しかったのだけれど、生きていく事がとても辛く、耐えられなかったの。本当にごめんね。でも、あなたが産まれてから、ずっとあなたを想ってきたし、大切に思い、いつでも心から心配しています。

あなたや家族の幸せをいつも願っています。今生きているこの時を大切に、家族支え合って、笑顔で生きていって欲しいです。

お母さんは、いつでもあなたの味方です。幸せになってね。

お母さんより

「私から母への手紙」

お母さんへ

私はお母さんが死んでから、私達をおいていった。私達より自分の事しか考えてなかったのかな。先に死ぬなんてずるいよ。自分だけ楽になって。私が過食嘔吐になったのも、悪くなったのも、お母さんのせいだって、お母さんがうつになったり死んだせいで、私は病気になった。って思ってきたの。でも全然そうじゃなかった。

自分で自分を傷つけて、自分で自分を追いつめて、苦しめてきたって事に気付いたよ。今までお母さんのせいにしてごめんなさい。ずっと心配ばかりかけてごめんなさい。もう自分を傷付けることはやめるね。お母さんは本当に苦しかったね。お母さんの気持ち、少しずつわかってきたよ。

これからは、お母さんに心配かけないように強く生きていくからね。見ててよ。お母さんの分も、しっかり生きていくから。

そしてY・S家をもっと明るくしていこうと思うよ。今まで本当にありがとうね。感謝してます。愛してくれて、私を産んでくれてありがとう。

Y・S

**【追記】**

養生苑での療養後、10日程して彼女から電話がありました。

「毎日、温熱器をかけています。昨日、1年ぶりに生理がありました。」  
という、うれしい連絡でした。確実に良い方向に向かっていることに感激しました。毎日、続けるように言って電話を置きました。

以上